

令和5年度 学校経営計画に対する最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>① ICTを日常的に活用した授業の推進により、生徒一人ひとりの可能性を引き出すとともに、探究型授業の充実を図る。</p> <p>② 「コア輪島」「夢道場」などの自主学習活動を通して、生徒が主体的かつ発展的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>③ 教員の教科指導力を高め、3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* GIGAスクール校内研修</li> <li>* 探究型学習の互見授業（オンデマンドも活用）</li> <li>* 教科毎の探究型授業開発研究</li> </ul>	<p>授業でICT機器を活用した新たな探究型の学習を取り入れた教員の割合が</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：能登半島地震により、対面型の授業実施が困難となったことで、ICT機器を利用する環境下で教員が様々な方法を模索しなければならなくなった。それにより、アンケート等は実施できなかったが、大半の教員がICT機器を利活用した授業を実施したと考えられる。</p> <p>課題：厳しい環境ではあったものの、ICT機器の利活用によって生徒の理解を促進させる方法を組織として検討し、教員それぞれが改善に結びつけることが必要である。</p> <p>改善策：今回の震災下での経験を蓄積し、ノウハウを組織内で共有する機会を設定し、教員個々の授業内でICT機器がより効果的に活用できる研修会や情報交換会を、次年度以降の適切な時期に設定する。</p> <p style="text-align: right;"><b>教務</b></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 夢道場でフォローアップ</li> <li>* コア輪島、生徒間の学び</li> <li>* スタサポの振り返り</li> </ul>	<p>1年7月と1月模擬試験を比較し、国数英総合の平均点偏差値を比較し</p> <p>A 2.0以上上がった B 1.0～1.9上がった C 0～0.9上がった D 下がった</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：1年7月進研模試で国数英の平均点偏差値は46.7であった。1月模試は成績が反映されるタイミングで受験できた生徒は5人で、比較できるデータではなかった。</p> <p>課題：震災後の1月模試は5人が金沢会場、17人が自宅受験、42人が答案回収できず、進路に向けて一丸となって受験することができなかった。</p> <p>改善策：マーク式のスタサポではオンライン受験、記述式の7月模試では、会場等を確保するなど、全員受験を目指したい。</p> <p style="text-align: right;"><b>進路指導</b></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 教科内学習会</li> <li>* 互見授業</li> <li>* 補習の参観</li> </ul>	<p>シラバスや評価の観点等の活用と、教員相互の情報共有により、3年間を見通した指導ができた教員の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：シラバスや評価の観点等の活用は、年度当初や考査ごとに行われ、昨年並みに利用されている。中間考査の代替である単元テストを実施することなどから、進度の確認や授業内容についての情報共有が頻繁に行われており、3年間を見通すことにつながっている。</p> <p>課題：震災後、予定通りの授業時間が確保できず、進度が大きく遅れている。</p> <p>改善策：今後もしばらくは対面とオンラインのハイブリッドでの授業の実施が予想される。効率よく授業が出来るように事前に課題等を提示したり、予習・復習などの手法を確立していく。</p> <p style="text-align: right;"><b>進路指導</b></p>

令和5年度 学校経営計画に対する最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2 人間力を向上できる学校  ①「部活道」などの課外活動を通して、主体的かつ能動的に行動できる生徒を育成する。	* 部活動 * ボランティア活動	自ら考え行動する場面を積極的に取り入れることにより、生徒の主体性が高まったと感じる顧問の割合が  A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	評価不能	成果：顧問が自ら考え行動する場面を作ることで、生徒の主体性が高まったと答えた顧問が多かった。部活道によっては生徒自身が練習メニューの作成や休養日の設定を行っている。 課題：能登半島地震のため、部活動を行うことができていない部が大多数である。しかし、避難所の運営やボランティア活動などを通して、主体的に行動できている生徒もいる。 改善策：今後、活動場所や活動時間を工夫しながら部活道を再開していく必要がある。また、地域貢献活動としてボランティア活動など、生徒が主体的に行動できる場を設ける必要がある。 <div style="text-align: right;">生徒会</div>
②学校行事を通して、他者を思いやりよりよい人間関係を築こうとする心を育成し、いじめを許さない環境づくりを推進する。	* 昼休みの放送 * 球技大会 * 文化祭	生徒会活動で、思いやりをもって他者と協働できたと考える生徒の割合が  A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	70%  B	成果：10月に行われた体育祭において、思いやりをもって他者と関わる事が出来たと答える生徒が7割を超えていた。 課題：能登半島地震の影響により、1月以降の学校行事を行うことが出来なかった。また、日常生活で他者と協働する場面が少なくなってきた。 改善策：能登半島地震の影響により制限された中での生徒会活動になることが想定される。学校内外でできることを模索しながら、よりよい人間関係を築くことができるよう、他者と協働する機会を設けていく。 <div style="text-align: right;">生徒会</div>
③地域との関わりを通して、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。	* 地域との連携事業 * 文化祭の一般公開	生徒が地域と関わる授業の取組や行事のうち、今年度再開あるいは新規に実施された件数が  A 7件以上 B 5件以上 C 3件以上 D 2件以下	4件  C	成果：全校海岸清掃（新規）・能登空港開港イベント（再開）・浴衣DE輪島朝市（新規）・文化祭一般公開（再開）を実施できた。 課題：1月以降能登半島地震のため、地域と関わる授業・行事の多くを中止せざるを得なくなり、実施件数が伸びなかった。 改善策：能登半島地震で本校校舎が避難所として、また小中学校の教室として利用され、生徒が地域の方々や小中学生と交流する機会となった。また、避難所の運営やボランティア活動を行った生徒も多い。今後地震からの復興事業に学校組織として積極的に貢献する機会を設定していく。 <div style="text-align: right;">総務</div>

令和5年度 学校経営計画に対する最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3 地域と共に成長できる学校</p> <p>①「WAJI 活」を学校全体で系統的に取り組む活動として充実させ、地域貢献意識の向上と実践力の育成を図る。</p>	<p>* 「WAJI活」 * 探究活動</p>	<p>「WAJI 活」を通して、地域の課題解決に向けた実践力を高めることができたと感じる教員の割合が</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：2年生は、前年度に行った個人探究の成果を地域の課題と関連させ、新たにグループ課題として設定した。その解決に向けた探究活動を、高校魅力化プロジェクトのスタッフと連携しながらサポートする過程で、教員が学ぶ場面も多かった。</p> <p>課題：よりよい探究活動について悩み指導法について不安を持つ教員がおり、うまく助言ができない教員も見られた。</p> <p>改善策：教員間でも探究を楽しみ、失敗を許容しチャレンジしていく雰囲気をつくっていく。</p> <p style="text-align: right;"><b>進路指導探究推進部</b></p>
<p>②輪島市主導の「高校魅力化プロジェクト」との連携により、将来にわたり地域を支える人材を育成する。</p>	<p>* 学習計画書の作成 * 探究活動</p>	<p>市との連携を通して、学習や探究活動に対する意欲や能力が高まったと感じる生徒の割合が</p> <p>A 50%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：2年生の探究活動において、フィールドワークの提案や協力などを魅力化プロジェクトのスタッフが積極的に行い、生徒の視野や活動範囲を広げてくれた。</p> <p>課題：教員と魅力化スタッフとの打ち合わせがもっと密に行えれば、より多くの場面で生徒へのサポートができたのではないかと考えられる。</p> <p>改善策：短い打ち合わせを積み重ねることで意思疎通を図り、生徒の意欲や能力向上のためのサポートがより適切に行えるようにしていく。</p> <p style="text-align: right;"><b>進路指導探究推進部</b></p>
<p>③小中学校との生徒間交流事業や教員研修、各種団体との連携を深め、「オール輪島」で生徒を育てる。</p>	<p>* 相互授業参観 * 教科間交流 * ICT機器の利活用研修会</p>	<p>校種間での相互授業参観や教科間交流、ICT機器の利活用研修会等に参加した教員が</p> <p>A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：12月に「中高教育力向上推進会議」を実施し、英語と数学の教員によるICT機器の利活用に関する情報交換会を行い、それぞれの教科の特性を踏まえた活用事例や、授業実施に関する具体的な質疑応答を行うことで、教員の知識やスキルの向上につなげることができた。</p> <p>課題：対象の教科を更に増加させ、情報交換会に参加する教員の割合を増加させる必要がある。</p> <p>改善策：能登半島地震による被害が深刻であるが、これまでの実践によってICT機器の重要性や授業における活用の工夫がノウハウとして蓄積されていると思われるため、それらの情報を交換する機会を計画していくことで、参加者の割合を増加させていきたい。</p> <p style="text-align: right;"><b>教務</b></p>

令和5年度 学校経営計画に対する最終自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>4 多忙化改善を積極的に実現できる学校</p> <p>①コロナ禍で制限されていた行事について、その意義や効果を見直した上で、再開、廃止・変更などを検討し、業務の効率化と最適化を図る。</p>	<p>* 中間考査廃止 * P T A総会の規模縮小 * 夏季補習の短縮</p>	<p>廃止あるいは規模の適切な効率化を図ることのできた行事等の数が</p> <p>A 6件以上 B 5件 C 4件 D 3件以下</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：行事見直しの目玉として、中間考査を廃止し学びウィークを設定したことで、部活動の時間を確保することができた。</p> <p>課題：学びウィークのあり方についてはまだ模索中であり、改善の余地がある。また、コロナ禍ですでに廃止した行事もあり、数そのものを減らすことは難しくなっている。</p> <p>改善策：学びウィークの内容について各課・学年で情報共有と調整を行い、効果と効率の両方を高めていく。また、ICT機器を活用して、行事を実施する際の業務の効率化を図る。</p> <p style="text-align: right;"><b>教頭</b></p>
<p>②教員の意識改革と業務改善を図り、ワークライフバランスの実現を果たす。</p>	<p>* 定時退校日の設定 * 日常的な声掛け</p>	<p>教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より</p> <p>A 10%以上減少した B 5%以上減少した C 3%以上減少した D 3%未満の減少</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：昨年度12月までの月平均2887分→今年度12月までの月平均2653分)で減少率は9.2%</p> <p>課題：震災前の12月までの比較ではやや減少した。震災以降、勤務時間そのものは減っているが、通勤時間など過度な負担になった部分もあり、単純な比較ができない。</p> <p>改善策：来年度は震災後の体制づくりのため、時間外勤務が大きく増える可能性がある。全体を見て各教員の過重負担にならないように管理職がコントロールする必要がある。</p> <p style="text-align: right;"><b>教頭</b></p>
<p>③タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、課外活動指導の確立を図る</p>	<p>* 毎朝の登校指導 * あいさつ運動 * 休み時間等での声掛け</p>	<p>入室許可書「0」の日数が年間を通して</p> <p>A 175日以上 B 155日以上 C 135日以上 D 115日以上</p>	<p>評価不能</p>	<p>成果：入室許可書「0」の日数を年間通して確認することにより、本校生徒にタイムマネジメントを意識させることができた。</p> <p>課題：2学期終了時点で登校日数145日に対して入室許可「0」の日数は98日であった。達成率は68%であり、200日登校に換算すると最終的には136日となりC評価となる。</p> <p>改善策：タイムマネジメントに関する数値を生徒にフィードバックしてさらに意識づけを行う。</p> <p style="text-align: right;"><b>生徒指導</b></p>

